

Impromptu speech を用いた「話す力」の育成と評価

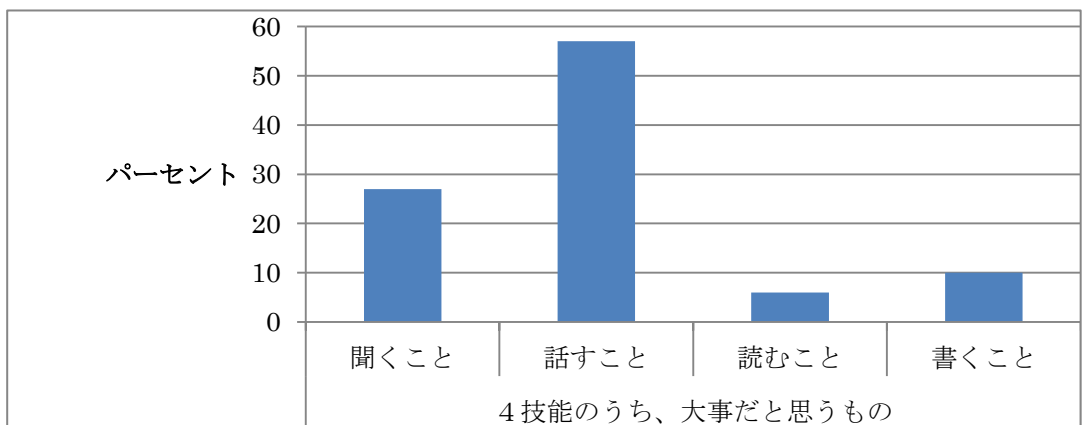
大阪市立鶴橋中学校 我妻 夏

1 はじめに

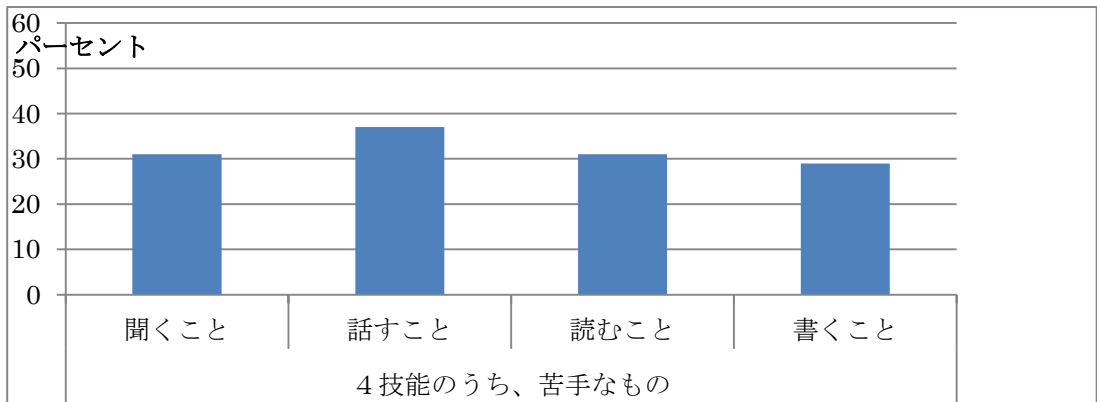
2015年に担当していた3年生は在籍数男子19名、女子19名、計38名である。小規模校なので、3年生は1クラスしかなく、女子がまじめで学習意欲が高く、男子をリードしている。1年生では、フォニックスを使い、音と文字の定着に力を入れてきた。教科書は『Sunshine English Course』（開隆堂出版）を使用していた。教科書は文法シラバスで構成されており、新しい文法導入に関しては、Presentation、Practice、Productionの順に授業を進めるように編集されている。授業ではできるだけ英語を使うように、また英語を使う必要があるように指導案を組み立てた。新しい文法事項の導入では生徒が身近なこととして英文を理解できるように、さまざまな工夫をした。練習として基本的なドリルも行うが、生徒とのやりとり、あるいは生徒間でのやりとりの時間を多くとるように努めた。また授業の最後には、必ず自分のこととしてその時間に学習した新しい文法事項を使って英文を作成させた。2年生では自己表現力を伸ばすため、自由英作文の指導に特に力を入れた。冬休みの課題として、英文日記にも取り組ませてきた。また話すことでは、自分たちで作成したスピーチやダイアログの発表など、パフォーマンス評価もしてきた。

4技能のバランスを考えた授業を構築してきたつもりであったが、3年時最初に行ったアンケート（資料1）では、「話すこと」を苦手とする回答が多く、その中でも、あらかじめ用意した英語を暗記して発表するのは、さほど苦手ではないが、いきなりトピックを与えられたり、話しかけられたりすることには苦手意識を持っている生徒が多いことが判明した。これまでは、用意したものを発表する形で「話すこと」を評価してきた。しかし、実際の日常生活の中では、予め話す内容を考えて相手に伝えることよりもその場で考えて伝えることのほうが圧倒的に多いと思われる。今回の実践研究では、「話すこと」において正確さよりも流暢さを求めるときに、どのような授業を展開し、その中で生徒にどのような活動をさせ、そしてその成果を評価していくべきかに注目した。

2015年4月に行った生徒アンケート（3年生36人対象）



(表1)



(表2)

2] なぜ impromptu speech に注目したのか

「話すこと」を苦手と感じる理由の中に、「すぐに考えをまとめることができない。」「緊張して語順がわからなくなる。」という回答があった。あらかじめ原稿を用意し、暗記したスピーチ、Prepared Speech においては、生徒は多少の緊張感はあるものの、即興でのスピーチに比べると、それほどの苦手意識は感じられないように思われる。しかし、実社会の中で、「話す」という行為をするときは、事前準備なしで行うことのほうが多いのではないだろうか。即興性のあるスピーチだけが、「話す力」をつけるために大切だと言っているわけではない。授業の中では、教科書で新しく導入された文法・構文・語彙の定着を目指すための、いわゆる操作された機械的な練習を第一段階として行っている。そして、コントロールされた話す活動から、自分の考えを加えることができる活動へと、段階を踏まえて進めていく。最終的には、生徒自らが文法、構文、語彙を選んで話すスピーチへとつながっていく。このような普通の授業でのスモールステップの積み重ねの最終段階として、実社会に似た実践が必要になってくる。

その実践の手段として、Impromptu Speech が大事であり、その体験を通して、生徒は、自分の考えや気持ちをまとめる力が養われるのではないか。「話すこと」において正確さよりも流暢さを求めるときに、どのような授業を展開し、その中で生徒にどのような活動をさせ、そしてその成果を評価していくべきかに注目した。

3] 2分間トークと1分間スピーチ

3年時の初めから、授業の初めに、ウォーム・アップも兼ねて、「英語学習に向かって脳を活性化しよう」と、ペアになり、交互に1分間話す活動を始めた。トピックは毎回筆者が選び、活動時に生徒に伝えた。生徒はペアになり、一人ずつ、1分間与えられたトピックについて話さなくてはならない。ペアの一人が話している間は、もう一人は相づち(Oh, really? Oh, did you? Sounds great. など)を打ったりしながら、何について話しているのかを理解するように努める。ペア活動は必ず、男女で行う。1年時より教室の座席は男女が交互に座るように担任が決定しているので、座席が横同士でペアを組むことができる。座席替えは、担任が1ヶ月に1回ほどの割合で実施している。

1学期の間は、相手が話し終えたら、相手の話した内容についてノートに書き留めるように指示した。2学期になってからも同様に1分間で話す活動を継続した。今度は聞き役の生徒に、相手の話している単語数を数えるように指示した。また、ノートには各自が自

分がうまく言えたことと、言いたかったのに言えなかったことをメモするように指示した。メモをしている間に、ティーム・ティーチャーとともに、机間指導を行い、言えなかったことに関して答えたり、質問を受け付けたりしながら、生徒が話す活動において疑問に感じたことをその場でなるべく解決するように心がけた、またこの1分間話す活動と並行して、ペアで与えられたトピックについて2分間話す活動を行った。この活動では、自分が話すだけでなく、相手の発言を聞いて相づちを打ったり、あるいは自分ばかりが話しすぎないように、相手が話すように促したりと、対話の継続にも気を配らなくてはならない。また、一人で話す活動とは違い、相手に対して自分の考えを伝えることもできる。どちらの活動にも生徒たちは意欲的に取り組んだ。

スピーチの際のトピックについては、活動を始めた当初、トピックは生徒にとって身近であって考えをまとめやすいものにした。1分間話す活動のトピックに取り上げた例としては、'My favorite subject' 'Tsuruhashi Kindergarten' 'My hometown' 'My treasure' 'High School' 'My hobby'などがある。いずれも3年生の生徒たちにとっては身近に感じられるトピックである。

次にペアで2分間話し続ける活動のトピックについて紹介したい。前半は、生徒にとって身近に感じられ、対話が続けやすいであろうと思われるトピックを選んだ。'What are you going to do this weekend?' 'Which season do you like the best?' 'What do you want to do at high school?' 'What do you want to be in the future?' 'What do you like to do in your free time?' 'What is the most interesting event at Tsuruhashi J.H.S?'などである。後半は、自分の意見や考えを述べるができるように、少し controversial な内容のものを選んだ。'Comic books are good for children.' 'Cellphones are necessary for junior high school students.' 'Junior high school students have to use printed dictionaries.' 'We need uniforms at junior high school.' 'Young people can sit on priority seats.' 'We can study at home on the Internet without going to school.' 'We need school lunch at junior high school.'などである。後半のトピックは3年間の英語学習の総まとめともなる内容であり、生徒たちが自分の意見、考えを英語で相手に伝えることができること、また、相手の意見、考えをしっかりと聞き、その上で同意したり、反論したりすることができることを目標としている。これは文部科学省が身につけさせたい力としている、「判断力」「思考力」「表現力」にも当てはまると思われる。生徒にとって、トピックによっては難しい場合もあったが、総じて積極的に活動に取り組んでいた。

4 2015年度3年生対象パフォーマンステスト

2015年	4月	インタビューテスト(個人)1回目
	5月	Impromptu speech(個人)1回目
	6月	教科書を応用したペアでの対話テスト
	7月	インタビューテスト(個人)2回目
	10月	Impromptu speech(個人)2回目
	11月	ペアでのImpromptu 対話テスト1回目
2016年	2月	ペアでのImpromptu 対話テスト2回目

(表3)

内容

1回目 2015年4月 別室にて、C-NETと生徒一人によるインタビューテスト
名前を尋ねることから始め、質疑応答。

EX Which do you like better, dogs or cats?

評価の観点、Voice, Grammar, Content の3つで、A,B,C の3段階。Attitude は全体を見て、採点する。

評価者は、JET と C-NET

2回目 5月 クラス全員の前での生徒ひとりひとりによる即興スピーチ 1回目 サイコロを投げ、出た目の数のトピックについて英語3文で発表する。話し始める前に、頭の中でまとめる時間を20秒間与える。

Topics: 1 Oita 2 Osaka City 3 Tsuruhashi J.H.S.
4 My homeroom class 5 My favorite thing 6 My dream

評価は、JET と C-NET で行う。生徒も、自分以外のクラスメートに対する評価を同様に
行う。評価の観点は Voice, Grammar and Vocabulary ,Content, Eye Contact の4つを、
A,B,C の3段階とする。

3回目 6月 教科書の Speaking をねらいとしたページを応用したペアでの対
話を全体の前で演じるテスト

4回目 7月 別室にて、C-NETと生徒一人によるインタビューテスト。英検の3級
の2次試験に似ている。絵を見て、それについての問いに答えることと、生徒が自分の立
場で答える質問がなされる。評価の観点は、Voice, Grammar, Content の3つで、A,B,C
の3段階。Attitude は全体を見て、採点する。評価は、JET と C-NET で行う。

5回目 10月 クラス全員の前での生徒ひとりひとりによる即興スピーチ 2回目
サイコロを投げ、出た目の数のトピックについて英語3文で発表する。話し始める前に、
頭の中でまとめる時間を20秒間与える。

Topics: 1 My favorite subject 2 Tsuruhashi Kindergarten 3 My hometown
4 My treasure 5 High School 6 My hobby

評価は、JET と C-NET で行う。生徒も、自分以外のクラスメートに対する評価を同様に
行う。評価の観点は Voice, Grammar and Vocabulary ,Content, Eye Contact の4つを、
A,B,C の3段階とする。

6回目 11月 ペアでの即興対話

ペアで別室に移動する。(教室では、他の生徒はティーム・ティーチャーとともに学習
プリントを行う。) 封筒のなかに、トピックを書いた短冊が入っている。ペアの片方が封
筒の中の短冊を取り出し、書いてあるトピックをペアで確認する。頭の中でまとめる時間
を30秒間与える。短冊を取り出さなかった方から話し始める。

Topics: 1 What are you going to do this weekend? 2 Which season do you like the
best? 3 What do you like to do at high school? 4 What do you want to be in the
future? 5 What do you like to do in your free time? 6 What is the most interesting
event at Tsuruhashi J.H.S?

評価は、JET と C-NET の2人で行う。評価は、Language, Fluency, Content,
Attitude の4つの観点からA, B, Cの三段階で判定する。

7回目 2016年2月 ペアでの即興対話

ペアで別室に移動する。(教室では、他の生徒はティーム・ティーチャーとともに学習
プリントを行う。) 封筒のなかに、トピックを書いた短冊が入っている。ペアの片方が封筒

の中の短冊を取り出し、書いてあるトピックをペアで確認する。頭の中でまとめる時間を30秒間与える。短冊を取り出さなかった方から話し始める。今回のトピックは賛成あるいは、反対であるかどうか、自分の意見を問われる内容である。最初に I agree. あるいは I disagree. と立場をはっきりさせてから、話し始める。どちらを選んでもかまわない。相手の意見を聞いた上で、同意したり、反論したりして、対話を進めていく。

Topics:

- 1 Comic books are good for children.
- 2 Cellphones are necessary for junior high school students.
- 3 Junior high school students have to use printed dictionaries.
- 4 We need uniforms at junior high school.
- 5 Young people can sit on priority seats.
- 6 We can study at home on the Internet without going to school.
- 7 We need school lunch at junior high school.

5 評価について

評価は、JET と C-NET の2人で行う。評価は、Language, Fluency, Content, Attitude の4つの観点からA, B, Cの三段階で判定する。

以下はその評価表である。

評価表

Pair Work Assessment Rubric

Categories	Language	Fluency	Content	Attitude
Points	Grammar Structure Vocabulary	Voice Pronunciation Intonation Speed	Coherence Don't change the topic Don't get off the topic	Eye contact Share the conversation Cooperation Gestures Responses
A	Minor mistakes	Almost perfect	Almost perfect	Almost perfect
B	Understandable	Understandable	Not perfect but OK	Not perfect but OK
C	Difficult to understand	Difficult to understand	Off the topic	Too little effort

A---5points B---3points C---1points (表4)

テストの前に、評価の項目については、生徒に告げておく。

この評価表に関しては、Brown(2010) が *Language Assessment: Principles and Classroom Practice* で述べているFive principles を参考にして作成した。

Validity (妥当性)	高い	Direct speaking test である。トピックは、生徒が日頃授業中にペアで会話に取り組んだトピックの中の1つである。
----------------	----	--

Reliability(信頼性)	高い	Native English speaker と日本人教師との2人で測る。
Practicality (実用性)	高い	19組のペアで、2分間でのテストなので、授業時間1時間で終了する。
Authenticity (真正性)	よい	formal discussion ではないが、身近な話題について、あいつちや、相手への質問をしながら、自然な会話となる。
Washback (波及効果)	よい	ペアにおける対話形式でのテストは、相手に自分の考えや気持ちを伝えることができた喜びと達成感を与え、自信を持たせることができる。

(表5)

6] テストの評価者の役割について

今回4回行ったスピーキングテストにおいては、いずれの場合も、日本人教師と、外国人指導助手で評価を行った。事前に打ち合わせをして、テストに臨んだ。評価者によって評価が大きくずれている場合は、録画をしておいたDVDを見るようにした。評価表作成前に、他校で教えている外国人指導助手5名と、勤務校でティームティ칭ングをしている外国人指導助手に、スピーキングテストの評価に関するアンケートをとった。

いくつかの項目を提示し、どの項目が生徒のスピーチにおいて気になるかについて尋ねた。その結果、項目による共通性は見られなかった。6人という少ない数であったことと、日本の中学生に教えた経験が、全員が3年未満であるということが原因である可能性が高い。外国人指導助手は、日本人教師と違い、教職の経験が少なく、英語教育が専門でない場合が多い。やはり、評価の主導権は日本人教師が取るのが妥当だと思われる。

表6 外国人講師へのアンケート結果

Points	From1(least) to 5 (most)	1	2	3	4	5
Voice	Japanese-like pronunciation	0	0	2	2	2
	Accent	2	2	2	0	0
	Intonation	1	1	1	1	2
Grammar Structure Vocabulary	Vocabulary	2	2	1	1	0
	Word order	0	0	1	2	3
	Tense	0	2	2	1	1
	Third singular person	0	2	2	2	0
	Article	0	4	1	0	1
Content	Coherence	0	0	2	1	3
	Cohesion	0	0	3	2	1
Eye contact Gesture	Eye contact	0	0	2	1	3
	Gesture	0	0	3	2	1

(表6)

7 生徒アンケートより

「1人で話す続けることと、ペアで話すことでは、どちらが楽しいか」

生徒たちは、1年間を通じて、ペアで様々な話題について、「話す」活動を行ってきた。その中でも、「One minute talk」のように一人で話し続けることと、「2分間ダイアログ」のように1つの話題について、2分間2人で話し合うことと、どちらのほうの方がより楽しいと感じたのであろうか。「一人で話し続ける」と答えた生徒が、35%、「ペアで話すこと」と答えた生徒が65%であった。「一人で話し続ける」を選んだ理由として、「自分のペースで話せる」「意見をきちんと言える」「相手と話しが続きなくなったら、という心配がない」などがあげられていた。「ペアで話すこと」を選んだ理由としては、「相手の意見を聞くことができる」「二人の方が緊張しなく話せる」「相手の意見を参考にできる」「助けたり、助けてもらったりできる」「語彙が広がる」「一人より二人の方が楽しい」などがあげられた。

8 まとめ

1年間の実践において、即興で話す力が飛躍的に伸びたとは残念ながら言いがたい。しかし卒業前の授業アンケートには、「英語で話して楽しかった」「クラスメートの意見が聞けてよかった」など、肯定的なとらえ方をしている生徒が多い。38人の生徒たちが、この実践を通じて、単に英語で話しているというだけでなく、「伝え合うことの喜び」と、「相手を理解することの大切さ」を学んでくれたのではないかと思う。そして、英語を得意としない生徒が、アンケートの中で、「話すことが恐くなくなった。高校でも、英語で話す練習をしていきたい。」と答えてくれていたのが印象的であった。

生徒たちの感想の中に、文法が浮かんでこないのと同時に、適切な単語が浮かんでこない（生徒は「英語が浮かんでこない」、「もどかしい」と表現していた）ことが、流暢さを妨げる原因の1つとなっている、と答えたものが数名いた。生徒の *impromptu speech* の様子を見ていると、簡単な表現ではなく、中学3年生として、ある程度のレベルの文法事項や語彙を使って表現しようとしていた生徒が、回を重ねるごとに増えていった。書く活動では、既習の表現を使って、中学3年生にふさわしいレベルの英文を書くことができる生徒たちである。書く活動では、推敲をする時間が、話す活動よりも多くあるので、間違いの訂正を容易にすることが可能であろうと思われる。*Impromptu speech* において、考えをまとめることに関しては、生徒たちは4月当初よりは、速くなったと思われるが、語彙に関してはもう少し指導や訓練が必要であったと考えられる。

Impromptu Speech Feedback

1 トピックはどれでしたか？ ○をつけてください。

- ・ My favorite subject ・ Tsuruhashi Kindergarten ・ My hometown
- ・ My treasure ・ High School ・ My hobby/ My hobbies

2 言えたこと、言いたかったが言えなかったことを書いてください。

(言えたことは、英語で書きましょう。)

(1)言えたこと

1 文目 _____

2 文目 _____

3 文目 _____

(2)言いたかったが、言えなかったこと (_____)

3 1学期にも同じ即興スピーチをしましたが、今回の方がスムーズに言えましたか？ ○をつけてください。

はい / いいえ

4 それはなぜですか？ (_____)

5 授業においてペアで、トピックについて1分間スピーチをして、語数を数えていましたが、今回の即興スピーチに効果がありましたか？それはなぜですか。 (_____)

6 授業においてペアで、トピックについて2分間対話練習をしていますが、今回の即興スピーチに効果がありましたか？

(例：What are you going to do this weekend?) それはなぜですか。(_____)

Feedback (ペアでの Impromptu 対話テスト2回目 振り返りシート)

1 今回のトピックは何でしたか。丸を付けてください。

- 1 Comic books are good for children.
- 2 Cellphones are necessary for junior high school students.
- 3 Junior high school students have to use printed dictionaries.
- 4 We need uniforms at junior high school.
- 5 Young people can sit in priority seats.
- 6 We can study at home on the Internet without going to school.
- 7 We need school lunch at junior high school.

2 どちらを選びましたか。丸を付けてください。 I agree. / I disagree

3 言えたことを書きましょう。

4 言いたかったけど、言えなかったことを書きましょう。

(_____)

5 今回は、二人での2分間対話の2回目でした。1回目に比べてスムーズに言えるようになりましたか。丸を付けてください。 はい。 いいえ。

・それはなぜですか。(_____)

参考文献

Brown, H. Douglas (2010) Language Assessment: Principles and Classroom Practices NY: Pearson Education ESL

西巖弘(2010).『即興で話す英語力を鍛える！ワードカウンターを活用した驚異のスピーキング活動2』東京：明治図書